

第3回高等研究院スーパーレクチャー「人体・生命の不思議」を開催



会場の様子

第3回高等研究院スーパーレクチャーが、3月13日(木)、経済学部第一講義室において開催されました。

スーパーレクチャーは、高等研究院における研究プロジェクトを終了した高等研究院教員の研究成果を広く学内外に発信するため、年1回程度開催しているもので、今回は「人体・生命の不思議」をテーマに、坂神洋次高等研究院副院長の司会進行のもと、4名の講師による講演が行われました。

最初に、吉村 崇生命農学研究科准教授が、「動物が季節を読み取る仕組みを探る」と題し、動物が季節を読み取る仕組みについて、アリストテレスに起源する研究の流れと最新の研究成果を報告しました。

続いて、近藤高等研究院院長が、「Kai タンパク質が刻むシアノバクテリアの一日」と題し、単細胞生物から高等動植物に至るまで普遍的に確認されている、時を刻む時計機構（概日時計または生物時計）に関連する最新の研究成果について講演しました。KaiC 蛋白質が、生命の最も根源的な反応である ATP の分解を利用して自ら「振子」として機能するからくりを持っていること、またその発見に至る経緯について説明があり、研究の醍醐味が伝わる講演と

なりました。

引き続き、松本邦弘理学研究科教授が、「生命現象とシグナル伝達：モデル動物からのアプローチ」と題し、生命現象の基本であるシグナルの受容・反応過程におけるシグナル伝達制御に関する最新の研究成果を紹介し、またアルツハイマー病や炎症性腸疾患の解明や治療との関係にも触れました。

最後に、貝淵弘三医学系研究科教授が、「動脈硬化のしくみをさぐる」と題して、我が国の死因の大きな部分を占めている心筋梗塞や脳出血・脳梗塞などの動脈硬化性疾患の予防および治療法の開発について講演し、同教授が中心になって発見し世界的に注目を集めている、血管平滑筋の攣縮に低分子量 GTP 結合蛋白質 Rho が中心的役割を果たしていることに関連して、そのメカニズムおよび創薬への応用について解説しました。

それぞれの講演後には、活発な質疑応答が行われました。このスーパーレクチャーに参加した約120名の本学教職員、学生、一般市民等からは、「分かりやすかった」、「面白かった」、「参加して良かった」との感想が寄せられ、大変有意義なものとなりました。



講演を行う吉村生命農学研究科准教授



講演を行う近藤高等研究院院長



講演を行う松本理学研究科教授



講演を行う貝淵医学系研究科教授